

## アトモスフィア

## 東日本大震災による孤児や遺児の夢の実現のために

室 伏 きみ子\*

昨年は、大きな災害が頻発した年でした。特に、3月11日に東日本を襲ったマグニチュード9.0の巨大地震は、太平洋沿岸を中心に巨大な津波を誘発して、多くの人々の貴い生命や財産を奪いました。5月以来、何度か東北3県の被災地を訪ねましたが、その惨状に胸が痛くなりました。そんな中で私たちは、被災された方々の心の痛みを少しでも軽減できないだろうか、辛い経験をして課題を抱えた方々のためにお手伝いできることはないだろうか、と考えてきました。特に、保護者を失った子ども達の悲しみと心に刻まれた傷を想い、その子ども達が、将来の夢を断念しなければならなくなることを恐れました。何かしなければという想いでいっぱいでした。

周囲では、多数の研究機関が、被災した東北地方の大学や研究機関への支援活動を始めていました。研究者たちは、希望者を其々の研究室に受け入れて、研究の進展を支援する対策を、早急に実現させました。科学を生業とする人達の清々しい一体感を見せて貰うことができ、嬉しい気持ちになりました。

私達の大学でも、被災した筑波大学の代わりに、元来実施していた直前の生化学実験指導に加えて、生物学オリンピックに派遣される高校生のための特別訓練を引き受けることになり、様々なプログラムを準備して訓練に臨みました。また、被災した小・中学校へ理科教材を届ける活動も行っています。

それらの活動とは別に、保護者を失った子ども達の支援をしたいと考え、学生達や内外の友人達に呼びかけて、孤児や遺児のための活動を開始しました。子ども達と楽しい時を共に過ごす場を定期的に設けて、子ども達が成人するまで、その成長を長く見守って行こうと決心したのです。具体的には、毎年、夏や冬の長期休みに宿泊型のキャンプを開催し、そこに集う子ども達が様々な活動を経験し共有する中で、心の通い合う仲間を作り、自分自身を育て、さらには、この活動を未来に繋ぐ大人に成長することを助けて行きたいと考えています。

また今後、常時連絡や相談を受け付ける窓口を設け、カウンセラー、教師、医師らによる相談業務や、進学や就職などの進路相談もやって行きたいと計画しています。東京でのキャンプに参加できない子ども達や、参加した子ども達との関係性を深めるためにも、被災地の近くでの集まりをもつことも検討しています。

この活動には、多くの方々の温かいお気持ちが寄せられつつあります。お茶の水女子大学を中心とする50余名の学生達をはじめ、企業やNPO法人等のボランティア、カウンセラー、医療関係者など、20余名の方々から参加のお申し出があり、さまざまな企業、団体、個人の方々によるご寄付も集まって来ています。子ども達が、それぞれの夢を実現し、強く羽ばたいて欲しいとの願いを込めて、私達はこの活動を「夢のつばさプロジェクト」と名付けました。

このプロジェクトは、NPO法人「お茶の水学術事業会」の一部門として位置付けられ、現在までに「遺伝カウンセリング・ジャパン」「ウェアラブル環境情報ネット推進機構 (WIN)」「全国てらこやネットワーク」の4つのNPO法人が実施母体として活動して来ています。また、お茶の水女子大学の同窓会や、各地の教育委員会、児童相談所などの方々のご協力が、大きな力となっています。

昨年は、8月9日～11日の3日間と、12月23日～26日の4日間、東京奥多摩で、キャンプ活動を行いました。夏には、準備の都合上広く募集活動ができなかったため、名取市の子ども達を招待して、プレキャンプを実施しました。アスリートとの駆けっこ、フラメンコギタリストとの共演 (?), スイカ割りやバーベキュー、記念植樹、(株)ブリヂストン (特別協賛企業) の展示館見学などを楽しみましたが、キャンプの在り方を实地に体験し、学習した3日間でした。冬のキャンプには、夏に参加してくれた子ども達に加えて、石巻、相馬、いわきからも参加者がありました。東京タワーや動物園を訪ね、近くの体育館で体操のお兄さんと運動をし、また尺八とピアノの演奏を聴き、自分達でもハンドベルの演奏をしたり、お菓子の家を作ったりと、学生達を中心になって一生懸命に準備した沢山のプログラムを楽しみました。クリスマスパーティーには、サンタクロースもやって来て、プレゼントをもらった子ども達の笑顔は輝いていました。この笑顔を決して絶やすことなく、子ども達がそれぞれの夢を実現するために、少なくとも、今キャンプに来てくれていた最年少 (7歳) のKちゃんとT君が成人に達するまでは、この活動を続ける予定です。

なお、以下が「夢のつばさプロジェクト」のホームページです。

<http://www.npo-ochanomizu.org/tsubasa/index.html>

なお、ご寄付のお願いもさせて頂いています。詳しくは、ホームページをご覧ください。

\*お茶の水女子大学大学院教授、日本学術会議会員、文部科学省科学技術・学術審議会委員